

令和5年12月4日 立川市広報課

送付文書 計4枚

報道機関 各位

たましん美術館×立川市地域文化振興財団との初の共催展
邨田丹陵－時代を描いた やまと絵師－
立川市地域文化振興財団設立 35周年記念事業

たましん美術館において、立川ゆかりの歴史画家・邨田丹陵(むらた・たんりょう)の初の本格的な長期の展覧会を開催します。丹陵は、10代の頃より歴史画で受賞を重ね、明治31年に岡倉天心が起ち上げた日本美術院にも特別賛助員として参加しました。大正12年の関東大震災で罹災した丹陵は、東京府下の北多摩郡砂川村(現・立川市砂川町)に転居し、歴史の教科書にも掲載されている《大政奉還》を砂川村で完成させました。丹陵作品を全国各地から集め、前期・後期と選りすぐりの64点を3か月にわたり公開します。



画像：左)《聖徳記念絵画館壁画下図「大政奉還」》明治9年、明治神宮蔵、前期展示

画像：右)《小早川隆景公仮寝図》部分 明治35年頃、三原市蔵、前期展示



- 展覧会名：邨田丹陵－時代を描いたやまと絵師
- 前期：令和6年1月13日(土)～2月18日(日) ●後期：令和6年2月24日(土)～3月31日(日)
- 会場：たましん美術館(立川市緑町3-4) 多摩信用金庫本店1階
- 料金：一般¥500 大学・高校生¥300(税込み) 中学生以下無料 ほか障害者割引あり
- 主催：(公財)たましん地域文化財団、(公財)立川市地域文化振興財団
- 助成：文化庁、(公財)花王芸術・科学財団、(公財)三菱UFJ信託地域文化財団

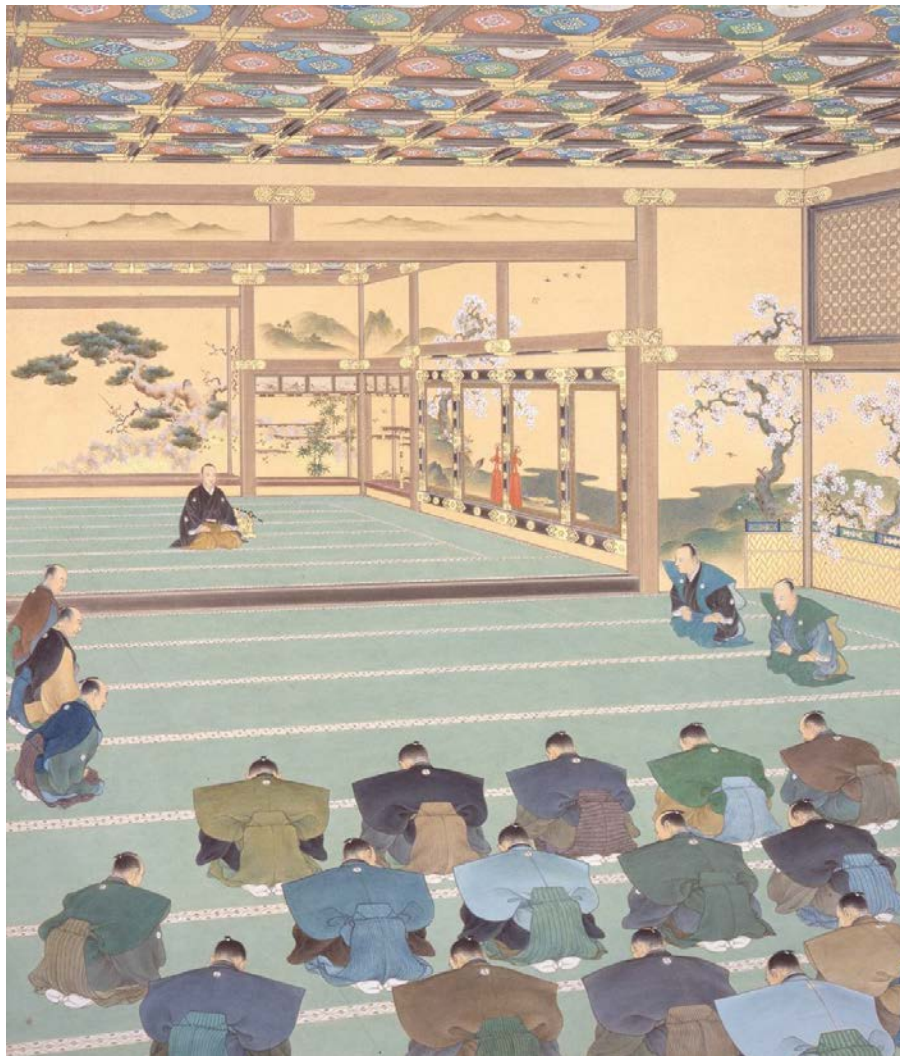
※《大政奉還》壁画の展示はありません。壁画の下図を前期に展示します。

※64点は総展示数です。前期と後期に分け32点ごと展示を予定しています。

展示内容については 公益財団法人たましん地域文化財団 齊藤(TEL.042-526-7788)
プレスリリースについては 公益財団法人立川市地域文化振興財団 小林(TEL.042-526-1312)

邨田丹陵

時代を描いたやまと絵師



邨田丹陵筆《聖徳記念絵画館壁画下図「大政奉還」》昭和9年（1934）、明治神宮蔵、前期展示

2024年1月13日（土）～3月31日（日）

前期：1月13日（土）～2月18日（日） 後期：2月24日（土）～3月31日（日）

たましん美術館

〒190-8681 東京都立川市緑町3-4 多摩信用金庫本店1階

<https://www.tamashinmuseum.org/>



立川市地域文化振興財団
設立35周年記念事業



展覧会の概要

邨田丹陵（1872～1940）は、地域ゆかりの知られざる絵師です。

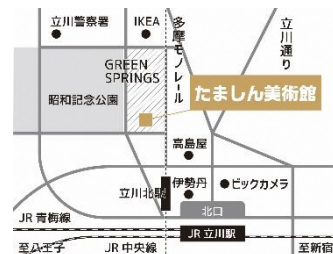
旧田安徳川家に仕えた儒学者村田直景の子として生まれた丹陵は、父より史学や故実の教えを受けて育ち、その父の勧めで武者絵の大家川辺御楯に弟子入りしました。そして10代の頃より内国絵画共進会、東洋絵画共進会、内国勸業博覧会、日本美術協会展覧会などに歴史画を出品し受賞を重ね、明治24年には寺崎廣業や小堀鞆音らと日本青年絵画協会を結成し、同31年に岡倉天心が起ち上げた日本美術院にも特別賛助員として参加しました。

しかし、大正12年の関東大震災に罹災後、東京府下の北多摩郡砂川村（現在の東京都立川市砂川町）に転居し、また展覧会への出品は明治40年の第1回文展を最後に、その後一切行った記録がありません。中央画壇から距離をおき、名声を欲さず、質素な暮らしの中で気の赴くままに筆を揮ったのです。30代半ばにしての早すぎる引退の結果、その名は長く忘れ去られることになり、丹陵の画業や生涯を正面から論じた研究はほぼ皆無です。砂川村に構えた画室で、歴史の教科書等でよく知られる代表作《大政奉還》（明治神宮外苑・聖徳記念絵画館の壁画）を完成させたこともほとんど知られていません。

本展は、絵師邨田丹陵に焦点を当てた初の本格的な展覧会となりますが、地域作家の掘り起こしにとどまらず、明治以降の「日本画」創出の動きの中で、日本古来の史実をテーマにした歴史画が果たした役割についても考察します。

開催概要

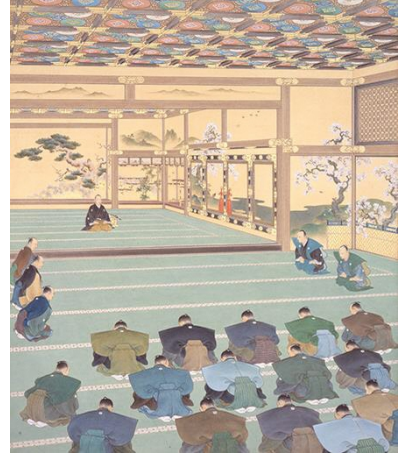
- | | |
|----------|--|
| (1) 展覧会名 | 邨田丹陵－時代を描いたやまと絵師 |
| (2) 会場 | たましん美術館（東京都立川市緑町3-4）
JR中央線・立川駅より徒歩約6分、多摩都市モノレール・立川北駅より徒歩約4分 |
| (3) 会期 | 2024年1月13日（土）～3月31日（日）
前期：1月13日（土）～2月18日（日）
後期：2月24日（土）～3月31日（日） |
| (4) 開館時間 | 午前10時～午後6時（入館は午後5時半まで） |
| (5) 休館日 | 月曜日、展示替え期間
2月12日（月・振替休日）は開館し、翌13日（火）を休館とする。 |
| (6) 入館料 | 一般500円、高校生・大学生300円
次の該当者は無料 中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方および付き添いの方、多摩らいふ倶楽部会員、シニア・スクエア会員 |
| (7) 主催 | 公益財団法人立川市地域文化振興財団、公益財団法人たましん地域文化財団 |
| (8) 助成 | 文化庁（令和5年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業）、公益財団法人花王芸術・科学財団、公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団 |



本展の見どころ

■ 邨田丹陵に焦点を当てた初の本格的展覧会

教科書で誰もが見たことがある《大政奉還》の絵。しかしその絵を描いた画家について知る人は多くありません。本展では壁画《大政奉還》の下図にあたる作品をはじめ、展覧会出品作も交えながら、初期作から晩年作までを含む総点数 64 点で知られざる画家・邨田丹陵丹陵の全貌に迫ります。これだけの丹陵作品が一堂に会する機会はまたとないでしょう。



邨田丹陵筆《聖徳記念絵画館壁画下図「大政奉還」》昭和9年、明治神宮蔵、前期展示

■ やまと絵の伝統と近代的表現の融合した歴史画

丹陵は師・川辺御楯の後継者として歴史画を終生描き続けました。保守的な日本美術協会の審査に不満を覚え、若手画家たちを率いて日本青年絵画協会を結成したことからも分かるように、丹陵は近代日本画の新しい側面を切り開いていこうという意欲に満ちていました。丹陵の作品からはそうした伝統と革新のせめぎあいを感じられます。

■ 目玉となる作品の数々

丹陵が中央画壇から離れて隠棲するきっかけとなった最後の展覧会出品作《大宮人》（福岡県立美術館）や、丹陵を砂川村に呼び寄せた砂川家に伝わる縦3メートルを超える大幅《霊峰富嶽図》（砂川家蔵）など、丹陵の画業を語る上で欠かせない作品を展示します。



(左から) 邨田丹陵筆《両雄会湖畔図》明治27年、砂川家蔵、後期展示／邨田丹陵筆《六歌仙》明治20年代後半～30年代前半、個人蔵、前期展示



(左から) 邨田丹陵筆《大宮人》明治40年、福岡県立美術館蔵、前期展示／邨田丹陵筆《霊峰富嶽図》昭和11年、砂川家蔵、後期展示

■ 外国人も楽しめる二か国語表記

日本人だけでなく世界各国の方にも楽しんでいただけるように、会場内の解説や展覧会図録にはすべて英訳を併記します。

お問い合わせ先

たましん美術館 Tel.042-526-7788

公益財団法人たましん地域文化財団 〒186-8686 東京都国立市中 1-9-52

Tel.042-574-1360 <https://www.tamashinmuseum.org/>

展覧会担当：学芸員 齊藤全人 Mail: saito@tamashin.or.jp